様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：２８００２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１０９２９

研究課題名（和文）DV被害をスクリーニングできるIPV被害者発見尺度の実用化の検討

研究課題名（英文）Examination of practical use of the detection scale for intimate partner violence (DS-IPV)

研究代表者
新城　正紀（SHINJO, Masaki）

沖縄県立看護大学・看護学部・研究員

研究者番号：５０２４４３１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、研究代表者らが開発したDS-IPV（IPV被害者発見尺度）の基準関連妥当性の検討、カットオフ値の設定、DS-IPVの実用化の検討であった。基準関連妥当性の検討およびカットオフ値の設定は、A母子医療センターにおいてDS-IPVとVAWS（女性に対する暴力スクリーニング尺度）を同時に測定して得られた1000件のデータの解析により行った。DS-IPVの基準関連妥当性が確認され、カットオフ値の設定ができた。現在、論文化を進めている。
　研究代表者が勤務するHクリニック（心療内科）にDS-IPVを導入し、心理臨床でのDS-IPVの活用と有用性に関するデータ収集を実施している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　DS-IPV（IPV被害者早期発見尺度)は、精神的暴力（不安喚起的要因、行動制御・抑制、威圧・脅しなど）によるIPV被害者を早期に発見して、適切な対応を行うための尺度である。DS-IPVの基準関連妥当性が確認され、カットオフ値が設定されることにより、被害者発見のツールとして活用できる可能性がある。
　精神的暴力は、潜在する特徴があり可視化が難しいことから研究が進まない要因ともなっている。DS-IPVによる暴力の可視化は、この分野の学術的発展への貢献が期待できる。また、被害者の早期発見は、適切な対応や安全・安心な環境の提供などの支援に繋がる。さらに、加害者対策への貢献など、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study was to examine the criterion-related validity, establish cutoff values, and explore the practical application of the DS-IPV (Detection Scale for Intimate Partner Violence) developed by the research team. The criterion-related validity examination and the establishment of cutoff values were conducted by analyzing data from 1000 cases, where DS-IPV and VAWS (Violence Against Women Screening Scale) were simultaneously measured at the A Maternal and Child Health Center. As a result, the criterion-related validity of the DS-IPV was confirmed, and the cutoff values were established. We are currently in the process of publishing these findings.
　The DS-IPV has been introduced at the H Clinic (Psychosomatic Medicine), where the principal investigator is employed, and data collection regarding the use and utility of the DS-IPV in psychological clinical practice is being conducted.

研究分野：心理臨床、公衆衛生学、疫学

キーワード：精神的暴力　早期発見　IPV　DV　暴力被害者　安全・安心な環境　暴力加害者　こころの健康被害

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

1．研究開始当初の背景

世界的には、IPV（DV を含む）による被害者の多くは女性であり、その女性および一緒にいる子どもへの深刻な心身の健康被害は公衆衛生上の大きな問題とされています。これまで IPV 被害女性の健康問題に関する調査はさまざまな国において行われ、外傷、うつ病、性感染症、流早産や低出生体重児の出産、慢性痛、消化器症状、喘息、高血圧や心疾患、ストレス症状など多岐にわたっています。また、世界的に共通しているのは、配偶者から身体的または性的暴力を受けた女性被害者は、自ら受けている暴力を被害と捉える（認識する）ことができず、被害を訴える方法や機関などを知らない、あるいは人に言えないために孤立化・潜在化し、一緒にいる子どもの虐待につながりやすいことです。被害者（子どもを含む）の効果的な支援には、一刻も早く潜在化した被害者を発見（可視化）して対応する必要があります。

わが国では、2021 年に施行（2019 年最終改正）された「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」では、医療者に求められる役割も法律上明記されています。保健医療従事者は、専門家、実践家としての立場から IPV 被害女性の発見・対応（治療）および予防・啓発について、科学的根拠に基づいた関わりが重要です。しかし、国内外の先行研究から、医療機関および医療従事者は IPV に対する認識および対応が不十分であり、潜在的な IPV 被害を医療者が適切に発見・対応するまでには至っていない（M. Inoue et al., Japan Journal of Nursing Science 2016）。

先進的に IPV 対策に取り組んできた米国の医療機関における IPV 被害女性のスクリーニング実施率は 7%（女性 4821 人中 479 人）と低かった（Ruth Klap et al., Society of General Internal Medicine 2007）。既存の利用できる IPV 被害女性のスクリーニング尺度はあるが、質の高い効果的なスクリーニング尺度はまだない（Moraco & Cole, The Journal of American Association, 2009., Rabin et al., American Journal of Preventive Medicine, 2009.）との報告があり、IPV スクリーニングの必要性は高いが、世界的には確実な実施には至っていません。また、米国やカナダなどで用いられている IPV 被害者発見尺度には、日本の文化や慣習に馴染まない項目（銃で脅すなど）が含まれています。

そこで、研究代表者らは、IPV 被害者発見尺度（DS-IPV, Detection Scale of Intimate Partner Violence）を開発しました。DS-IPV は、22 項目 4 因子（寄与率）:「不安喚起的要因 11 項目（37.52%）」、「行動制御・抑制 4 項目（7.12%）」、「威圧・脅し 3 項目（6.66%）」、「日常的に抱く感情 4 項目（5.66%）」で構成され、全体の寄与率は 56.96%でした。

2．研究の目的

本研究の目的は、DS-IPV の基準関連妥当性の検討、カットオフ値の設定、利用マニュアルの作成を行い、DS-IPV の実用化について検討することです。

3．研究の方法

平成 28-31 年度科研費（基盤研究（C））により、DS-IPV の有効性・有用性についての調査および検討を行いました。研究代表者らは、DS-IPV の基準関連妥当性の検討およびカットオフ値の設定のためのデータを得るために A 母子医療センターにおいて調査を行い、目標とした 1000 件のデータを得ました。A 母子医療センターでは、既存の尺度（女性に対する暴力スクリーニング尺度：VAWS）を診療に活用しており、この VAWS と DS-IPV の相関により DS-IPV の基準関連妥当性の検討を行いました。

1)基準関連妥当性

DS-IPV の基準関連妥当性は、A 母子医療センターの日常診療に使用している VAWS（既存尺度）と DS-IPV とを同じ対象者に同時に実施（同一対象者に VAWS と DS-IPV との調査票に同時に記入）してその関連をみるという併存的妥当性により確認しました。VAWS 判定（陽性：1、陰性：0）は、VAWS の開発者である片岡から入手した「女性に対する暴力スクリーニング尺度の使用許可（2020 年 6 月 5 日）」による「合計得点 2 点以上をスクリーニング陽性と判断する」を基にしました。一方、DS-IPV は、22 項目 4 因子「不安喚起的要因（11 項目）」「行動制御・抑制（4 項目）」「威圧・脅し（3 項目）」「日常的に抱く感情（4 項目）」で構成され、各項目は「ほとんどない」1 点、「ときどきある」2 点、「しばしばある」3 点、「ほとんどいつもある」4 点のリッカート尺度で得点化し、最低 22 点から最高 88 点の範囲で合計得点を算出しました。

2) カットオフ値の設定

カットオフ値の設定は、クロス表の分析（感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度）および ROC 曲線の分析により算出しました。

4．研究成果

平成 25 年-27 年度科学研究費（基盤研究(C)）により、配偶者などのパートナーから暴力を受けた被害者を発見する「IPV 被害者発見尺度」(Detection Scale for Intimate Partner Violence、

以下、DS-IPV）を考案しました。平成 28-31 年度科学研究費（基盤研究(C)）によりその DS-IPV の有効性・有用性についての調査および検討を行いました。

DS-IPV の実用化は、潜在している IPV 被害者を見つける（可視化する）こと、被害者支援機関の連携や協力体制の強化に役立ち、科学的根拠に基づいた効果的な IPV 被害の予防や対策への貢献が期待できます。基準関連妥当性は、DS-IPV と「女性に対する暴力スクリーニング尺度（Violence Against Women Screen: VAWS)」との相関関係等の検討により確認しました。VAWS 使用については、尺度開発者から承諾を得ました。基準関連妥当性は、新しく開発した DS-IPV と既存の VAWS と同時点で測定し、両者の相関により検証する（併存的妥当性)。診療情報として VAWS をルーチンに活用している医療機関（A 母子医療センター）の協力により、DS-IPV および VAWS を同時測定した 1000 件のデータの収集ができました。また、データの整理およびデータ入力を行いました。

DS-IPV の基準関連妥当性の検討は、A 母子医療センターにおいて同じ対象者に同時に実施した VAWS との併存妥当性により確認するために DS-IPV 合計得点（最小値 22、最大値 88）と VAWS 合計得点および VAWS 判定（1:陽性、0:陰性）との相関分析により行いました。相関関係が高ければ、DS-IPV の併存的妥当性は高いとしました。VAWS 判定（1:陽性、0:陰性）と DS-IPV（22 項目）の平均値および合計得点の分布（正規曲線)、DS-IPV の各因子（4 因子）の分布（正規曲線）による分析を行いました。DS-IPV 平均値と VAWS 合計得点および VAWS 判定（1:陽性、0:陰性）との相関は、0.66、0.56 でした。DS-IPV のカットオフ値は、ROC 解析により求めました。DS-IPV のカットオフ値（暫定値）は、DS-IPV 合計得点 28 が妥当であるとしました。

DS-IPV の基準関連妥当性が確認できたことから、DS-IPV は、IPV 被害女性を早期に発見するスクリーニング尺度として有用であると考えられます。また、ROC 解析により DS-IPV のカットオフ値（暫定値）は、DS-IPV 合計得点 28 としました。

DS-IPV の実用化は、潜在している IPV 被害者を見つける（可視化する）こと、被害者支援機関の連携や協力体制の強化に役立ち、科学的根拠に基づいた効果的な IPV 被害の予防や対策への貢献が期待できます。研究代表者が勤務するクリニック（心療内科）の日常診療に DS-IPV の導入、活用を図りました。研究代表者は、2023 年度に 100 人の患者（クライエント）の心理カウンセリングを行いました。このうち、19 人に DS-IPV を実施し、18 人の合計得点は、暫定カットオフ値：28 点以上あり、親密なパートナーからの暴力（IPV）を受けていると判断しました。カットオフ値未満の 1 人の合計得点は 24 点でしたが、クライエントはパートナーとの関係に悩んでいました。

上記の研究成果について、学術雑誌への論文化を進めている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Shinjo Masaki、Inoue Matsuyo、Akamine Itsuko、Naka Chieri、Tanaka Hideo	４．巻 18
２．論文標題 Development of an early detection scale for intimate partner violence to occur in relationships under power and control	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	６．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jjns.12369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Masaki Shinjo, Matsuyo Inoue, Itsuko Akamine, Hisami Shimonaka, Izumi Shiina
２．発表標題 Detection and Psychological Support for Intimate Partner Violence Using DS-IPV: A Case of a Mother with Mental Health Issues and Children
３．学会等名 WAIMH 2024 Interim World Congress 5-7 June 2024 Tampere, Finland（国際学会）
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上　松代 (Inoue Matsuyo) (30326508)	沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・准教授 (28002)	
研究分担者	赤嶺　伊都子 (Akamine Itsuko) (60316221)	沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・教授 (28002)	
研究分担者	田中　英夫 (Tanaka Hideo) (60470168)	滋賀医科大学・医学部・客員教授 (14202)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関